

成果の説明書

(氏名) 長野 博一	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none">・本年度の担当授業は、基礎演習、初年次ゼミ、都市政策論、都市再開発論、グループ研究Ⅱ、都市計画学、都市経営論、地域政策を学ぶ(リレー講義第8回目)を担当した。・講義科目では講義資料等を Teams から提供し、各回で Teams から課すリアクションペーパーとその評価は次回講義前にフィードバックした。また良い視点が記載されたリアクションペーパーは講義中の解説時に紹介し、教員の私見と共に受講生へ共有した。・基礎演習では、「VISIONARY 14 歳の特別授業(マイナビ出版・2022年)」を用いた輪読を行うと共に、本書のトピックをテーマとした『2050年の社会をデザインする』と題したグループワークを課し、プレゼンテーションを実施した。・基礎演習では、番外編として3ゼミ合同企画「1万円を無駄遣いして人々を幸せにする」に参画し、グループワークを通して、企画・調査・分析・情報発信等の基本的スキルを身に着けた。(なお、本ゼミの1チームが2位入賞を果たし、実際に1万円を無駄遣いすることとなり、インスタグラムでのライブ配信を行なったりと、ゼミ生にとって意義ある学びを得た)・課外活動の一環で、フィールドワーク(サブゼミとして)を複数回実施した。福島市のバリアフリー基本構想における市民参加による街歩き点検にゼミ生が参加し、ワーキングを実施した。池袋にある都市公園の点検、安中市の観光スポットの巡検、再開発現場として大宮門街ビルの施設点検などを実施した。・高校出前講義では、群馬県立沼田高等学校の生徒さんへユニバーサルデザインによるまちづくりの論点を講義した。(11月) <p>(2) 研究活動</p> <p>①学術論文</p> <ul style="list-style-type: none">・長野博一, 吉田樹: 買い物送迎を支える地域に合った移動の仕組み作り実践に関する研究, 土木学会論文集 D3 (政策と実践), Vol.78, No.6 (土木計画学研究・論文集), pp695-703, 共著, 2022年4月. <p>②学会発表</p> <ul style="list-style-type: none">・麻生智嗣, 長野博一, 吉田樹, 小市浩伸: 横浜市郊外住宅地におけるオンデマンドバス実証実験の取り組み, 第4回土木技術者実践論文集研究発表会, 2022年6月 <p>③科研費C採択研究(代表者)</p> <ul style="list-style-type: none">・バリアフリーマップの現状と課題に関するレビュー・バリアフリー基本構想策定自治体が抱える課題の整理・国土交通省総合政策局バリアフリー政策課と連携した取り組み・ほか <p>(3) 社会活動</p> <p>①セミナー等・講師・講演</p> <ul style="list-style-type: none">・公益社団法人日本測量協会「測量・地理空間情報イノベーション大会2022」講演及びパネルディスカッション・ゲストパネラー, 2022年5月・国土交通大学校専門課程「バリアフリー研修」講師, 2022年7月・(株)パスコ 技術者研修 講師・ほか	

②審議会等委員

- ・大島町（東京都） 地域公共交通活性化協議会 委員
- ・群馬県 景観審議会 委員
- ・伊勢崎市 住生活基本計画策定検討委員会 委員
- ・福島市 バリアフリー基本構想分科会 会長
- ・安中市 都市計画審議会 会長
- ・越谷市 保健衛生審議会 委員
- ・越谷市 大袋駅東口周辺地区まちづくり協議会 アドバイザー
- ・調布市 公共交通活性化協議会 副会長
- ・国土交通省関東運輸局 バリアフリープロモーター
- ・福島市 地域公共交通活性化協議会 委員
- ・ほか

③学会活動

- ・日本福祉のまちづくり学会 市民参加のデザイン特別研究委員会 委員長
- ・日本福祉のまちづくり学会 学術研究委員会 委員
- ・日本福祉のまちづくり学会 地域福祉モビリティのデザイン特別研究委員会 委員
- ・日本地域政策学会 編集委員
- ・ほか

2 その他の事項

- ・自治体との連携協定や企業との共同研究などを進める
- ・学際的な学会との連携を図り、分野横断的な研究を進める
- ・ほか

3 次年度以降の計画・抱負

（1）教育活動

- ・大学院教育の充実を図る

大学院地域政策研究科における都市計画特論及び都市計画特論演習にて、実務者教員としての利点を生かした講義、演習を展開したい。

- ・学部教育の充実を図る

ゼミにおいて、学生の研究レベル向上を目的とした、研究を行うための基本学習を強化したい。学会等でのポスターセッションや懸賞論文等へのチャレンジを通じて、経験を積ませたい。

（2）研究活動

- ・科研（代表者）研究の充実を図る
- ・企業との共同研究を進める

（3）社会活動

- ・行政機関からの各種審議会等への参画を通じ、地域課題解決へ貢献したい
- ・自治体との連携協定など、地域課題解決へ向けた研究活動との連動を図り、学生の教育啓発へ繋げる

